施設分離型小中一貫教育校

にのみや学園通信

R8.11.04
第44号

各校にて校内研究プロジェクトが本格的に始まる。



２学期に入ってから、にのみや学園の各校において校内研究プロジェクトが本格的に始まっています。９月１５日（火）は二宮中学校にて校内授業研究会が行われました。３年生の全クラス（A組は数学、B組は英語、C組は国語）にて研究授業が行われました。数学は「2次方程式の解の公式」、英語は「英語の勉強に AI は必要か」、国語は「島崎藤村の『二人の兄弟』」の学習を行いました。





３教科とも学習課題についてまずは自分で考えました。その後、少人数での話し合い、さらにはクラス全体での話し合い活動を通じて自らの学びを深めていました。生徒たちには自分の考えとの関係性を意識しながら仲間の様々な考えを傾聴しようとする姿勢が見られました。





どの授業も教師からの一方的な知識の伝達ではなく、学習課題を自分事として捉えられるよう工夫された授業が展開されていました。二宮中学校では、この話し合い活動の充実を図ることにより「誰一人取り残されない学習集団、学習集団づくり」と「資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した実践の推進に重点を置き学校全体で授業研究に取り組んでいます。授業に臨む生徒たちの姿には、今まで学んだことをフル回転させ、仲間と共に新しい学習課題を解決しようとする「主体的・対話的で深い学びの実装」を目指している様子をうかがうことができました。

授業後、すべての教員が参観した３つのグループに分かれ、授業者と共に子どもの学びの視点から研究授業を振り返りました。先生方は、自らの指導力向上のために生徒たち以上に話し合い活動に熱心に取り組んでいました。二宮中学校の現在の取り組みは、紛れもなく次期学習指導要領の基盤となる「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」を見据えたものであり、話し合い活動を手だてとし、『誰一人取り残されない学級集団 、学習集団づくり』を目指したものでした。







今回の二宮中学校での校内研究プロジェクトは、2026年10月12日（月）発行の日本教育新聞で紹介されています。ぜひご覧になってください。研究会に取り組む先生方の姿には、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していこうとする前向きさを感じました。・・・すべては「にのみや学園の子どもたち」のために・・・

感想等はこちらのフォームにお願いします。
にのみや学園通信 HP
https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html